

「人・まち・わづくり部会」審議経過

これまで出された意見(第1回部会検討内容)

●3大学の学生からSNSを教わりながらコミュニティについて考えたい	3大学の学生からSNSなどのインターネットを教わりながら、コミュニティづくりにどのように活かしたらよいかを一緒に考えたらどうか。	
●コミュニティの検討は具体的な成果がでない。	これまでも区民会議ではコミュニティのあり方を検討してきたが、具体的な結果を出すことができていないように思う。一方で具体的な取組をやらないと区民会議は区民に知られないと思う。	
●3大学との交流を考える	区内に下宿している学生に多摩区の農家にホームステイしてもらうのはどうか。	
●子どもがいる世帯は、町内会に入りやすい	子どもがいる世帯は、町内会に入りやすい。子どもをターゲットとした方法がよいと思う。	
■地域コミュニティづくり	○町内会が開催するイベントや活動に住民が多く集まる	町内会が開催するイベントや活動に住民がたくさん来ることだと思う。顔が見える関係になることと考える。
	○地域で助け合いの関係がある	顔が見え、助け合える関係だと思う。その中の一つとして防災活動が大事。
		菅町会が防災の取組をしっかりとやっていると聞いたことがある。住民間でどのような関係性ができているか知りたい。
	○自分が住んでいる地域に住む人との顔が見える関係	取組が活発な例を区民会議として聞いてみて、多摩区全体に広げたらどうか。
自分が住んでいる地域に誰が住んでいて、その人たちがどのような人か、顔が見えるようになることが理想だと思う。		
○同じ興味を持つ人が集まれる	先般の地震で犠牲者が一人も出なかった白馬村のように、どの家にどんな人がいるか、みんなが知っている関係。	
■防災の取組	○同じ興味を持つ人が集まれる	同じ興味を持つ人が集まれる環境がある。
	●災害が懸念される地域の防災対策の検討について	防災活動をしっかりしている町会等に声をかけ、その方法を多摩区全体に広げる取組をしてはどうか。
●災害が懸念される地域の防災対策の検討	土砂災害が懸念されている地域で、町内会としてまだ対策が十分ではないところに行き、一緒に防災対策を考えたらどうか。	

考えられる取組と審議の方向性の検討(第2回部会の検討内容)

■SNSの勉強会を実施	勉強会を通じて、SNSは主として情報発信や共有のためのツールであり、目的を考えてその使用方法を考える必要があることが分かった。
■コミュニティとは何か	地域の中では、若い世代とその上の世代で、できることに違いがある。お互いに役割分担し連携して活動する地域づくりが必要だと思う。
	SNSは、誰もが使えないことが課題であるが、例えば災害時などは、使える人がSNSで情報を得て使えない人に提供することが大事だと思う。

審議の方向性について

＜防災活動を通じたコミュニティづくり＞

災害時に被害を少なくするためには、普段からの地域コミュニティの醸成が重要と考えられる。逆に言えば、防災に関する取組が活発な地域では、地域コミュニティの醸成が図られているとも考えられる。そこで、本部会の審議の方向性としては、「**防災活動を通じたコミュニティづくり**」とする。

具体的には、防災活動を主に、活発に地域活動が行われている事例などを調査・研究し、より多くの地域に広めるための方法を審議・検討する。

そのため、まずは、区内で防災活動を通じたコミュニティづくりが活発に行われている地域(町内会・自治会)へヒアリングを行う。

■防災訓練などの地域活動の出席率が高い理由について	中野島住宅の清掃活動の出席率が高い理由は、出席しないと棟毎にペナルティがあるから
	菅町会の地域は、もともと梨畑が住宅地化されたため道路が狭く入り組んでいる。このため、住民の防災に対する意識が高い。

事例調査(第3回部会の検討内容)

他都市及び区内の防災活動を通じたコミュニティ事例の調査を実施	※以下、事例調査で出された意見
	危機感がある地域は住民同士の連携がしやすいように思える。
	似たような懸念がある地域同士で情報交換をしたらどうか。地域同士で安全に避難する方法を共有したらどうか。
	ハザードマップ作成や避難訓練を通じたコミュニティづくりは有効だと思うが、それらを勧めるのは、ややハードルが高いと思う。
	一時避難場所については、地域で決めることになっているが、その決定の仕方や、地域住民への周知方法について知りたい。
	古くから住んでいる住民は、地域の防災に関する情報を多く持っているが、新しく転入してきた住民にそれをどのように伝えているのか知りたい。
	事例では、地域住民同士の関係性がしっかりできているようだが、これをどのようににつくったのか知りたい。
	地域住民同士の関係性がしっかりできている地域でも課題があると思う。地域の課題を聞いてみたい。
	防災活動そのものではなく、コミュニティづくりの手段の一つとして調査・審議していくことを明確にする。

今後の取組

